

2023 年度統計関連学会連合第 2 回理事会・組織委員会 議事録

日 時：2023 年 9 月 7 日（木）13:00 – 14:30

場 所：ハイブリッド（京都大学経済研究所本館 1F 会議室＋ZOOM）により実施

出席者：

【2023 年度学会連合理事】

応用統計学会	瀬尾 隆
日本計算機統計学会	山本義郎, 渡辺敏彦
日本計量生物学会	服部 聡, 松井茂之
日本行動計量学会	狩野 裕, 岩崎 学
日本統計学会	照井伸彦, 川崎能典
日本分類学会	宿久 洋（理事長）, 中山厚穂
【連合大会実行委員会】	西山慶彦（2023）, 橋口博樹（2024）
【連合大会運営委員会】	竹内光悦（2023）, 藤木美江（2024）
【連合大会プログラム委員会】	橋口博樹（2023）, 地道正行（2024）
【JJSD 編集委員長】	増田弘毅
幹事	阿部貴行, 石岡文生, 富田 誠, 本橋永至

組織委員会・報告事項

1. 2023 年度連合大会

(1) 西山実行委員長より、以下の報告があった。

- ・ 特に大きな問題はなく、滞りなく終了することができた。
- ・ Y Web System のサポートがとても良かった。
- ・ 反省点としては、PC を持ってこない人がいた点や協賛企業ブースの配置を検討すべき点が挙げられる。
- ・ 休憩室や打合せ室に関する要望がいくつかあった。

(2) 橋口プログラム委員長より、以下の報告があった。

- ・ 市民講演会とチュートリアルセッションは 400 人近い参加者がおり、プレナリーセッションは Zoom 参加者 169 人を含む 200 人以上が参加した。
- ・ 一般セッションは 34（発表数：186）、コンペティションセッションは 5（発表数：25）、企画セッションは 29（発表数：134）、プレナリーセッションは 1（発表数：1）、特別企画セッションは 1（発表数：0、企業が集まらず就活セミナーが取り下げ）であった。
- ・ 並行セッション数は昨年と同じ 8、報告総数は 352 であった。
- ・ 一般講演では、発表者と聴講者ともに対面が原則であることを認識していない方からの zoom-id の問い合わせが 10 件程度あった。HP での表記（ハイブリッド）が悪いとの意見が 1 件あった。
- ・ 講演報告書作成の際、発表者の所属が「〇〇大」で統一されているが、個々の入力では「〇〇大学」の記入もあり、後者に統一すべきかもしれない。
- ・ 昨年も同様であったが、ソフトウェアデモセッションの参加者は非常に少なく、セッションのやり方

を検討した方がよいのではないか。

- ・ 講演報告書を電子的に配布し、印刷物は料金をとって希望者のみに配布することになった。報告集に載せる広告の辞退があり、扉（プログラムのサマリ、教室の地図など）の部分は広告をつけて参加者に配布するような工夫が来年度は必要である。
- ・ 企画セッションにおいて、タイトルと講演者所属が間違っていて、企画セッションにとりあえずエントリーというものがある。十分に計画をたててからのエントリーをお願いしたい。また、修正に関するオーガナイザーからの返事がおそく、電子報告集の作成ぎりぎりにタイトルや所属が修正される企画もあった。企画を取り消す指針があった方がよいのかもしれない。
- ・ 6学会の会員以外の講演申込みが2件あり、2件とも6学会のいずれかに入会頂いた。

(3) 竹内運営委員長より、以下の報告があった。

- ・ 参加登録件数の速報値は1,053であり、予想を大きく上回った。
- ・ 市民講演会は現地参加195人、オンライン参加197人の計392人が参加し、チュートリアルセッションは326人が参加した。
- ・ 総務関係、協賛関係、会計関連について、それぞれ以下の報告があった。

<総務関係>

- ・ 昨年度までに引き続き、現地受付をQRコードによる受付としたため、受付時間、効率の大幅改善ができた。運営委員による受付も当日現金を原則取り扱うこともなく、これにより運営委員の当日業務の大きな負担減となった。またY Web Systemへの一部業務委託により、受付にはほぼ運営委員は不要とする可能性が見られた。
- ・ 大会中も参加申込をうけていたが、昨年度と同様に会場での支払いをなくしたため、大きなトラブルもなく、運営できた。

<協賛関係>

- ・ セッション切替時映写として企業には引き続き、協賛をいただいたが、原則、対面であったことから、市民講演会・チュートリアルセッション、プレナリーセッション、企画セッションなどの一部のセッション間のみでの投影となり、企業への声掛けの際には注意が必要に感じた。
- ・ デモセッションでは、参加者が芳しくなく、次年度以降工夫が必要である。また特別セッション（就活セミナー）については参加企業が直前でも見つからず中止となったことから、他企業の参加も含め、改善検討が必要と感じた。
- ・ 協賛企業の大会への参加について、ルールを整備（再確認）する必要がある。今年度は企画セッションのルールを踏まえ、ソフトウェアデモストレーションセッションでの講演者のみ「参加者」として運営委員長が登録した。なお6学会の賛助会員には、それぞれの学会のルールに従った。
- ・ 冊子への広告については会計関係の項目を参照のこと。
- ・ 保育室補助については、申請がなかった。

<会計関連>

- ・ 会場費は予算の段階で大きくなるのが分かったため、相応の予算案となった。ただし、参加者数がハイブリッドから主に対面へ変わったことから予測見誤り、当初850名の予測であったが、最終的には1,000人を超える人数となった。
- ・ 抄録集をペーパーレスにしたことから、金額の大幅ダウンが行えたが、その分、広告掲載費で辞退企業が出るなど、工夫が必要と分かった。次年度はプログラム冊子を紙媒体で配布することにより改善を期待したい。

- ・ 本年度の決算については、後日確定値の報告を行うが、速報としては、300万円の赤字予算だったが、参加者数の予測が大きく増えたことから、赤字額は大きく下がった。詳細は別資料で紹介する。

2. 赤池メモリアルレクチャー賞について（資料1）

川崎副理事長から赤池メモリアルレクチャー賞に関する過去の経緯について説明があり、今後の運営については以下のように行うことが報告された。

- ・ 従来 JSS 規則であった「選考委員会規則」は、統数研側の「AML 運営規則」の附則として取り込み、本則同様必要な改訂を行う。連合側でこれを規則とする必要性はない。
 - ▶ これによって、従来 JSS 規則の中に書き込まれていた、運営の事務を担当する部署を明記する規則は連合側にはなくなった。
- ・ 統計関連学会連合には、AML 開催前年の9月～12月末のどこかで、AML 実施に関する協力（共催）依頼を所長から連合理事長に書面で行う。
- ・ 連合に法人格が備わるまでは、2年ごとに統数研から共催依頼を行い、実施に関する実務的な要請は依頼文の中に盛り込む。
 - ▶ 依頼内容の具体は、統数研で作成中の依頼文書案を参照。
- ・ 連合と統数研との MoU 締結は、連合が法人となった段階で検討する。

赤池メモリアルレクチャー賞のセッションがない年はプレナリーセッションを開くことを確認した。

3. その他

マスコミへの対応については、今後、事業委員会で議論していくことを確認した。

組織委員会・審議事項

0. 前回議事録の承認

前回の組織委員会の議事録が確認された。

1. 2024年度連合大会各委員長の承認

2024年度の各委員長について、以下が提案され、承認された。

- ・ 実行委員会： 委員長：橋口博樹（東京理科大学）
- ・ プログラム委員会： 委員長：地道正行（関西学院大学）
- ・ 運営委員会： 委員長：藤木美江（愛知淑徳大学）

2. 2024年度連合大会開催日時・場所、ならびに運営方針について

橋口 2024年度実行委員長より、東京理科大学神楽坂キャンパスにて、9月1日（日）をチュートリアル・市民講演会、9月2日（月）～9月5日（木）を本大会としたい旨が提案され、承認された。ハイブリッド型の開催方法を検討している旨が報告された。

連合理事会・報告事項

1. JJSDの現状について

増田編集委員長より、JJSDの編集状況、今後出版予定のJJSD特集について報告があった。また、JJSDの2022年のImpact Factorは1.3、Journal Citation Indicator (JCI)は0.59で、Q2グループにランクインしたこと、そのStat. & Prob.カテゴリー内の順位は67位/164誌で、昨年137位/163誌（Q4グループ）から

だいぶ上昇したことが報告された。さらに、Scimago Journal Ranking (SJR)では、Q4 から Q3 にランクアップしたことが報告された。

2. 共催・協賛・後援

宿久理事長より、前回理事会から本日までに、次の事業・会議に後援・協賛したことが報告された。

- ・ 日本分類学会，北海道大学情報基盤センター主催「第 8 回日独分類シンポジウム」（2023 年 9 月 30～10 月 1 日，北海道大学）後援
- ・ 九州大学・文部科学省「学術研究の大型プロジェクトの推進に関する基本構想」（ロードマップ 2023）申請への統計関連学会連合サポートレター（2023 年 6 月送付）
- ・ 日本数学会，日本応用数理学会，統計関連学会連合主催「異分野・異業種研究交流会 2023」（2023 年 10 月 14 日，中央大学）
- ・ 応用統計学会主催：応用統計シンポジウム 2023（2023 年 11 月 13 日，オンライン）後援

3. 事業委員会（9/5）の報告について（資料 2）

宿久理事長より、2023 年 9 月 5 日に開催された事業委員会において、事業委員会設置の背景及び統計関連学会連合事業委員会運用規則などが紹介されたこと、事業委員会委員による互選の結果、竹内光悦氏が委員長に選出されたこと、事業委員会の役割について議論されたことが報告された。

4. 法人化の調査結果について（資料 3）

山本理事より、統計関連学会連合の法人化によるメリットとデメリットについて報告があった。また、宿久理事長より、次回以降の理事会で法人化について審議するとの報告があった。

連合理事会・審議事項

0. 前回議事録の承認

前回の理事会の議事録が確認された。

1. 2025 年度連合大会の開催場所について

2025 年度の連合大会の開催地（および実行委員長）について意見交換が行われ、候補者への打診は連合理事長から行うことが確認された。

2. 統計関連学会連合の体制整備（事業委員会，JJSD 編集委員会，広報委員会，統計教育推進委員会）について

宿久理事長より、JJSD 編集委員会を理事会の下に設置すること、広報委員会は閉鎖するが統計教育推進委員会はそのまま存続することが提案され承認された。

3. その他

宿久理事長より、10 月中を目途に、各学会から連合大会運営委員およびプログラム委員、統計教育推進委員会委員を選出頂きたい旨の依頼があった。

9 月 21 日に宿久理事長より、「JJSD 編集委員会」の名称について、Editorial Board と峻別するために、「JJSD 運営委員会」に変更することが提案され、メール審議の結果、承認された。

次回連合大会組織委員会及び統計関連学会連合理事会：
2023 年 12 月 23 日（土）15:00-16:30 にオンライン開催